

## 近隣の緊急医療支援のニーズに対応(5/20付報告より)

ここ2、3日は近隣のモロココミュニティにおける患者サポートが続きました。うち2名はともにPIHSが育成した地域保健ボランティアです。一人は肺の、もう一人は骨の悪性疾患で、助産所の診療車で総合病院に搬送しました。幸い適切な治療を受けることができ、快方に向かっていくようで安心しました。

## 地域の医療機関、行政と協力の巡回診療(6/3付報告より)

ジェネラルサントス市西方の町キアンバで、他の診療所や行政の医療機関と協力して巡回診療を実施しました。モロやビラーン等の住民150名余りが受診、当助産所チームは、男児対象の割礼や妊婦や母親たちの検診、講習を担当しました。なお、医薬品等はHANDSの助産所運営費の一部を充当、購入させていただきました。

## <ナブサさん念願のメッカ巡礼中も、助産所はしっかり機能しています>

「今メッカにいます。凶弾に倒れたハッサンの犠牲をアラーに捧げ祈りました！」のフェイスブック・メッセージと写真(右)が6/19付で届きました。6月の初め、「近いうちに巡礼に行けるかもしれない」という話を聞いた時は、ナブサさんの幸運を祝福しつつも、留守中の助産所は大丈夫だろうかという懸念がありました。



しかし、今年2月に無事国家試験に合格したという元奨学生モナリサ他、医療や事務スタッフにより、助産所はしっかり通常の患者対応ができています。

2002年のシングル他3地区での母と子のコミュニティースクール開設事業から協働を開始した私たちHANDS。

2017年末、集大成として開設を支援した助産所は、今年も出産介助数月平均10名と順調で、保険加入妊産婦が増えた今は収入も安定してきました。ナブサさんからは、母子の命を守る活動の原点であるモロやビラーンのコミュニティでの活動に軸足を置いて、今後も「地域住民のために」を大切にしたいというメッセージが届きました。

## 「黙想の家」に隣接して、ティヌオス女性組合専用の売店完成！ ハンディクラフトと農産品のさらなる販路拡大に期待

州都コロナダル市内のNDM大学やショッピングモールのほか、アニータさんの広い人脈で開拓してきた販路。お膝元のレイクセブ町でも、コロナ感染拡大がほぼ収束し、研修参加者が戻ってきたマリスト修道会「黙想の家」売店での販売が好調です。この年度末によく開催されるミッション校の黙想会に参加した生徒たちは、価格が手ごろなビーズ製品を購入、一方、引率の教師や修道女にはティナラク織財布やノートパソコン用の手さげ等が人気とか。



多数の宿泊研修が可能な黙想の家



建設費を送金して  
三日後には骨組み  
の写真相が届き  
ました。

「黙想の家」での需要拡大に対して、その敷地に女性組合専用の売店「チボリ伝統の家/チボリハウス」建設の話が持ち上がりました。これはハンディクラフトに加えて、ピクルスなどの食品加工品も販売できるスペースの新設です。「黙想の家」からは、さらに加工用の野菜を栽培する畑を提供したいという申し出があったとのこと。

このティヌオス女性組合は、先住民族学校と同様、アニータ先生の適切な指導により、私たちの各種支援を、近い将来の自主財源創出に確実に結びつけるものにしてきました。今回の建設費約10万円の直営売店「チボリハウス」についても支援を決めました。

決して多額とは言えない私たちの支援ですが、それを最大限に生かし、しかも迅速に形にしてくれるアニータさんをパートナーとすることで、辺境の女性、母親たちの収入向上、また、先住民族学校を支える授業料納入率の増加を確認できています。



神父を招いて実施の「チボリハウス」の祝別式(7/4)



さらに2週間後のチボリハウス内部。棚にはすでに女性組合の製品が並んでいます。

先住民族学校校長のアニータさんはすでにお伝えのように、1994年ごろまではSCMSIデコロンハイスクール校長でした。教育を受けたチボリ民族のガンダム校長のもと、教師の多くもチボリ民族に代わり、役目を終えたアニータ先生は辺境の初等教育のための先住民族学校を発足させ、70歳の今も子どもたちのため精力的に働いています。

7月半ば、教師給与補助金を含む今年度の先住民族学校あての支援金を送金した折に、私たちHANDSとしての公式な支援はこれが最後であり、これまでにサポートした各種自主財源事業や、母親たちの収入向上事業の成果に期待していること、また、地域住民とともに貴重な辺境の教育の機会を守っていただけるようお願いしました。